

出来事ファイル (No.24-2)

■未来への扉を開くこれからのまちづくり

あいあいネット神戸代表 木村 由巳子

元町7丁目に最初の事務所を置いた時、独居の高齢者が地域にたくさんおられるのに気づき、楽しいサロンを作りたいとボランティア活動を始めました。借りた小さなワンルームで趣味の手芸や歌等を一緒に楽しみ、昼食、おやつも手作りでした。それが24年経った今、介護予防ミニデイ「あいあいの会」や、つどいの場「うさぎのお茶会」につながりました。「一人でご飯を食べるより皆で一緒に美味しいね」という言葉を聞くのがとても幸せでした。ちょうどその頃、介護保険制度が始まり、有限会社ケイホワイトを設立して、訪問介護を始めました。皆さん困っておられることがたくさんありますが、制度上出来ないことだらけ。矛盾を感じながらこちらも24年経ちました。

近隣の高齢者は独居の方が多く、しかもオートロックマンション住まいです。「中で私が倒れたら誰が助けてくれるの」というのが皆さんの大変な心配事です。最近中央区ではタワーマンションが増え、人口は増え続けていますが、個人のプライバシーが優先され、隣近所も知らず、自治会組織が機能してなかったり、婦人会や管理組合もない地区もあります。防災関連のお知らせも「地域の居場所」のご案内も十分に届いていない様子です。高齢者時代がこの先何十年と続くのですから、未来への扉もこの方々がまず安心して住める地域にする事が先決ではないでしょうか？今若い皆さんもいずれ年を取ります。その時になって不備を感じても手遅れだなどとジレンマを感じながら、せっかくある神戸駅前のSLをまずは元気にして、地域のアイドルにしたいと思いついたわけです。これからも「デゴイチを守る会」のボランティアは、2ヶ月おきに整備、保守をして、季節折々の飾り物をして皆さんに喜んでもらいたいと思っています。これからの高齢者・障害者・子ども・老若男女を念頭に置いて相生橋地域が、誰もが住みたいと思っ下さるようなまちづくりをますます加速して欲しいと思います。



近隣の高齢者は独居の方が多く、しかもオートロックマンション住まいです。「中で私が倒れたら誰が助けてくれるの」というのが皆さんの大変な心配事です。最近中央区ではタワーマンションが増え、人口は増え続けていますが、個人のプライバシーが優先され、隣近所も知らず、自治会組織が機能してなかったり、婦人会や管理組合もない地区もあります。防災関連のお知らせも「地域の居場所」のご案内も十分に届いていない様子です。高齢者時代がこの先何十年と続くのですから、未来への扉もこの方々がまず安心して住める地域にする事が先決ではないでしょうか？今若い皆さんもいずれ年を取ります。その時になって不備を感じても手遅れだなどとジレンマを感じながら、せっかくある神戸駅前のSLをまずは元気にして、地域のアイドルにしたいと思いついたわけです。これからも「デゴイチを守る会」のボランティアは、2ヶ月おきに整備、保守をして、季節折々の飾り物をして皆さんに喜んでもらいたいと思っています。これからの高齢者・障害者・子ども・老若男女を念頭に置いて相生橋地域が、誰もが住みたいと思っ下さるようなまちづくりをますます加速して欲しいと思います。

■もとまちハーバークリーン作戦

1月はお正月休暇のため実施されませんでした。毎月、第1水曜日12時より、地域の企業様有志で実施しております。多くの方々のご参加をお待ちしております。



栄町通まちづくり委員会は、1月12日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(神戸市都市局景観政策課)小林凜、(㈱KKテクノ)松本美紀、(㈱神明)中川実幸、(神明倉庫)藤尾憲弘・大西登紀子、(兵庫県信用組合)藤本吉英・松井忠久・井上博仁、遠藤健太郎、(広島銀行)岩本、(三鈴マシナリー)稲岡千碩、(新光明飾)中川俊・藤田直之・西村友博・大森真美子、(佐田野不動産)佐田野宏之以上、16名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



神戸元町商店街 楽市楽座 情報 2月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

2月 8日(木)~2月13日(火)1/10Fukushimaをきいてみる ポスター展
2月15日(木)~2月20日(火)甲南大学文化会写真部 卒業展示
2月29日(木)~3月 5日(火)フォトKOBÉ 2024 写真展

◇元町映画館(有料) TEL366-2636

1月27日(土)~2月 2日(金)「映画の朝ごはん」
無理しないケガしない明日も仕事!「新根室プロレス物語」・「ホソを咬む」
1月27日(土)~2月 9日(金)「メンゲレと私」
2月 3日(土)~2月 9日(金)「ミッション・ジョイ」~困難な時に幸せを見出す方法~
「香港怪奇物語」歪んだ三つの空間・「99%、いつも曇り」・「Polar Night」
2月 3日(土)~2月16日(金)「その鼓動に耳をあてよ」
2月10日(土)~2月16日(金)
「ブルーを笑えるその日まで」・「王国(あるいはその家について)」
2月10日(土)~2月23日(金)「〇月〇日、区長になる女」
2月17日(土)~3月 1日(金)「彼方のうた」・「WILL」
2月17日(土)~3月 8日(金)「カール・テオドア・ドライバー セレクション 2」
2月24日(土)~3月 1日(金)「巡る、カカオ」・「4つの出鱈目と幽霊について」
【予定は変更になる場合がございます。】

□読者プレゼント

観覧ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙への一言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。先着順で2名の方にペア招待券をお送りします。

◎モネ 連作の情景



《睡蓮》1897-98年頃 油彩、カンヴァス 66.0×104.1cm ロサンゼルス・カウンティ美術館 Los Angeles County Museum of Art, Mrs. Fred Hathaway Bixby Bequest, M.62.8.13, photo © Museum Associates/LACMA

会 場:大阪中之島美術館5階
展示室(〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1)
会 期:2024年2月10日(土)~5月6日(月・休)
時 間:10:00~18:00
*最終入場は17:30まで
休館日:月曜日
(2月12日、4月1日、15日、22日、29日、5月6日は開館)
問合先:06-4301-7285
(大阪市総合コールセンター)
受付時間8:00~21:00(年中無休)



護法神立像(制吒迦童子立像/左)・善財童子立像(拈羯羅童子立像/右) 岐阜県・神明神社(関市円空館寄託)

◎あべのハルカス美術館開館10周年記念「円空 一旅して、彫って、祈って」

会 場:あべのハルカス美術館(〒545-6016 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス16階)
会 期:2024年2月2日(金)~4月7日(日)
時 間:火~金/10:00~20:00
月土日祝/10:00~18:00
*入館は閉館30分前まで
休館日:2月5日、3月4日の各月曜日
問合先:06-4399-9050 (あべのハルカス美術館)

みなと元町 TOWN NEWS

ヨウコウニュース



発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

広場は続くよどこまでも!居酒屋源пей跡、きらら広場も再整備へ

合資会社ゼンクリエイト 根津 昌彦

2ヶ月前の号でD51前の道路が歩行者専用道路化されることが「神戸駅前広場の使い方を考える会第2回南分科会」にて、神戸市より披露されたことをお伝えした。早速12月のハーバーロードワーキングでは、D51前の車道の歩行者道路専用化(広場化)の考え方が、神戸市駅前魅力創造課より提示され、今年5月にJR神戸駅大阪駅間開業150周年を迎えるJRとも協力しながら、D51前の道路空間のあり方について地域の皆さんと共に検討を進めていきたいという話をいただいた。

昨年7月のまちづくり構想提案から、こんなにも早く私たちが願っていた「JR神戸駅~元町商店街への南北動線の強化」の実現に向けた具体的な整備計画づくりが進んでいくなんてと、ワーキングメンバーも目を丸くし、笑みがこぼれる年内最後の会合となりました。

また、この日のワーキングでは、神戸高速鉄道所有地で居酒屋源пей神戸元町店があった場所に関し、現在開発事業の提案を募集しており、敷地の北角部分の約300㎡には地域に開放する広場と時間貸し駐車場を設けるので、その具体的な整備の考え方について、協議を行いました。

広場は地域イベントでの利用を可能とし、キッチンカーを配置したり、時間貸し駐車場部分と一体的に利用するようなこともできるように設えていただきたい旨、神戸高速鉄道側に要望を行いました。具体的な整備時期については未定であるものの、工事期間中は広場・駐車場部分が工事のための資材置き場などに利用することとなるため、開発事業完了後に広場・駐車場が整備される見込みであることが、情報として共有いただきました。

こうなれば、きらら広場も早く再整備の話ができるといいなあとと思って、新年を迎えたところ、1月のタウン協定例会合において、神戸市道路計画課の方からきらら広場の再整備の設計事業者募集を速やかに行い、令和7年度中の再整備完了を目指したい旨の説明がありました。あまりのタイミングの良さ、スピーディーな展開に驚きましたが、後日神戸市ホームページにて、本事業者公募がきっちりと発表されました。掲載内容によれば、「設計業務完了が令和6年12月末」とあったほか、設計条件に関して以下の詳細内容が記されていました。

- ①きらら広場は、道路法上の道路区域であるため、道路法や道路交通法、建築基準法等の規制がかかることを踏まえた設計とすること
- ②広場をイベントなどで利活用できるような設えとすること
- ③夏季の異常高温対策として、快適な空間の創出のための対策や設計上の工夫について、目指すべき効果を明確にしたうえで、技術的裏付けをもった施策を導入すること
- ④みなと元町タウン協議会より提出されている「JR神戸駅・ハーバーロード周辺のみちづくり構想」と併せ、別途業務で実施しているきらら広場の使い方に関する地元地域の意見を反映した広場計画とすること
- ⑤令和6年度に市内において異常高温対策の実証実験を予定しており、その結果を踏まえて異常高温対策の技術をきらら広場に導入することを検討しているため、本市との協議に応じて内容を反映すること
- ⑥広場の再整備費用は上限1.5億円とした設計の内容とすること(撤去費は別途)
- ⑦既存物件のうち、以下については存置とする。それ以外の既存物件については、撤去できるものとして提案すること

【対象物件・取扱い】

石柱(兵庫縣里程元標と解説碑)⇒存置
コペリンポート ⇒原則、存置
案内サイン ⇒広場内移設可

樹木 ⇒既存樹の伐採や移植の提案は可とするが、必要最小限に留めることが望ましい
道路(車道)照明、標識、信号⇒撤去・移設不可
歩行者用照明 ⇒撤去・移設可。ただし、撤去・移設する場合は市の基準で必要な照度を確保するため、照明の新設等を行うこと

④では、私たちが提案した内容を踏まえることや、今後ハーバーロードワーキングを中心として議論していくことになるであろう、具体的な整備計画案の検討内容を踏まえることと記されているものの、いくつかの制約があることも同時に示されています。現在きらら広場内にある「コペリンポート」は原則存置とあるが、これはより西元町駅に近いハーバーロードの商店街側の歩道に移設してはとまちづくり構想では提案しているため、協議ポイントの一つになると思われます。また、繰り返し登場する「異常高温対策」という言葉で、具体的にどのような内容を盛り込んでいく必要があるのかについても、地域の思いと乖離しないように協議を進めていくことが必要と感じました。

「D51前の歩行者専用広場化」「きらら広場の再整備」は、いずれもがまちを歩きやすく楽しめるスポットを創っていくことによって、JR神戸駅と元町商店街を結ぶ動線を強化させたいという大きな目標を実現させるためには、最重要の話です。令和6年の1年間は、またまた熱い1年になりそうなので、これから取り組む一つ一つの議論や社会実験で、タウン協の思いを形にしていければと思っています。

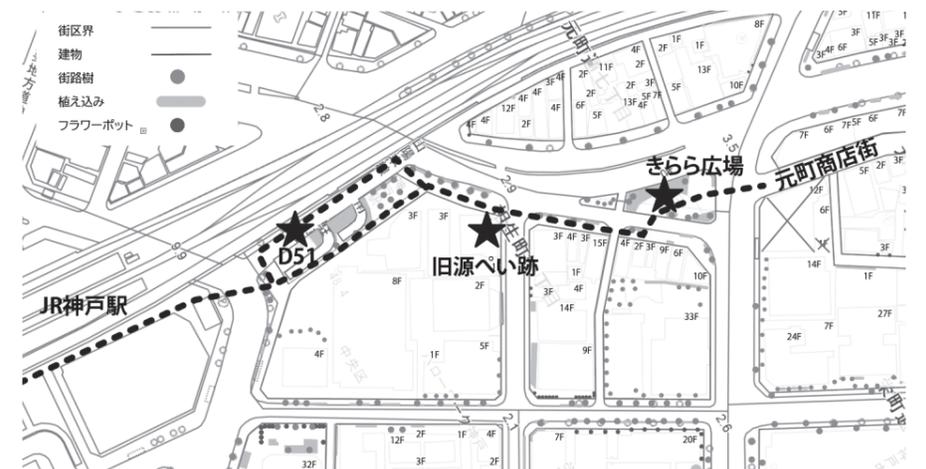


図. JR神戸駅、元町商店街と3つの広場の位置関係

みなと元町タウンニュース	2024年(令和6年)2月1日	みなと元町タウンニュース	第378号(3)
<p>海という名の本屋が消えた（123）</p>	平野義昌		

西村旅館(15)

西村貫一は「書物の趣味」第四冊で次回の内容を予告した。19世紀ドイツの画家カール・フリードリッヒ・シュルツを取り上げ、その蔵書票著書と蔵書票のこと、書物や研究、本貸借についての格言を紹介する、と。

ところが、第五冊(1929(昭和4)年12月発行、限定350部、定価1円50銭)にも、第六冊(30(昭和5)年12月発行、375部、定価2円)にも、第七冊(32(昭和7)年3月発行、350部、定価2円)にも貫一の名はない。

『西村旅館年譜』(以下『年譜』)29年2月、〈貫一随筆Random thoughts on Books 書籍、読書、書狂を大阪発行文藝雑誌薔薇派に発表。／註 第二回ヲ同誌四年二月号ニ発表〉註1 他の雑誌には寄稿している。同じく同年10月23日の記述、〈「蔵書標ニ表レタル言葉」西村貫一随筆、朝日新聞発行 朝日グラフ趣味講座に発表。／註 趣味ノ近代層、昭和五年三月十三日、朝日発行、二四八・五六頁ニモ同記事アリ〉註1・補註

随筆の内容は「書物の趣味」掲載原稿の簡略版。書物を女色や酒に換えるな等の道徳的箴言、日本の蔵書印、西洋の文言、書物貸借への苦言、蔵書票の起源など。起源はドイツのデューレル画伯(アルブレヒト・デューラー、1471～1528年)というのが通説らしいが、1466年の蔵書票を紹介している本もあり、「正確に云い難い」。書名・書誌はないが、貫一所有の蔵書票、「米国桑港図書館」「ロバート・シンクレア」「チャールズ・ディケンズ」「ゴンクール兄弟」「アルベルト・トーマ」など12点掲載、さすがグラフ雑誌。写真

貫一の寄稿がない「書物の趣味」は第七冊「編輯後記」で愚痴を書く。前年7月に原稿の大部分が届き、8月印刷所に入れ、校正なかなか困難で10月校了、11月下旬刊行予定だった、と。ところが十一月はすぎ、十二月になるも、出版爺からは何のたよりもありません、爺やの健否も疑わるほどの不安があるので、臘末の廿七日下神、爺やを訪ねました。健在健在、ゴルフ場建設に渾身の勇を揮っているほどの元気です。しかしあるべきものがないのでこの始末との自白、これには返す辞もないので、時季到来をまつ外はないとすすすご帰京した次第です。〉註2

同誌は毎回刊行予定が遅れていた。第七冊では一部の寄稿者に原稿を返還した模様。「出版爺」「爺や」とは貫一のこと間違いない。『年譜』の28(昭和3)年5月に以下の記述がある。〈「Ex-Librisに表れたる言葉に就て」随筆を神戸グロリア発行、雑誌書物の趣味に発表。／註

第一回昭和三年五月号。第二回十二月号。第三回四年六月号。猶 未発表原稿を蔵ス〉註1 「未発表原稿」があることを明言しているのに、発表していない。既述のように、この頃貫一夫妻はゴルフに熱中熱狂。貫一はプレイだけではなくゴルフ文献研究、ゴルフ書出版、さらに旅館の一部をミニゴルフ場に改造した。昭和の大不況・世界大恐慌の大波が旅館業にも及んだ。31(昭和6)年ゴルフプレイをきっぱり絶ち、経営専念を宣言する。

ここで「伊藤長蔵」を紹介しておく。1887(明治20)年兵庫県印南郡(現加古川市)の生まれ、1950(昭和25)年没。大地主の五男坊、神戸高等商業学校(現神戸大学)、東京高等商業学校専攻科(現一橋大学)卒業。長兄の会社を手伝った後、貿易会社を設立。1910(明治43)年

みなと元町タウンニュース	2024年(令和6年)2月1日	みなと元町タウンニュース	第378号(3)
<p>海という名の本屋が消えた（123）</p>	平野義昌		

西本願寺の大谷尊由(そんゆ)のロンドン渡航に随行し、ゴルフを知る。帰国後、神戸の出版社「日本ゴルフドム社」を引き継ぎ、22(大正11)年雑誌「阪神ゴルフ」を創刊、のち「ゴルフドム」と改題。昭和の初めに「ぐろりあ そさえて」創立。ゴルフ書出版と蒐集、ゴルフ場設立・設3、書物愛好など、貫一と共通点が誠に多い。註3

さて貫一、旅館業に勤しみつつ、40(昭和15)年頃にゴルフ文献目録の原稿を完成させた。加えて西村家代々の系譜『西村家家譜』も作成し、親戚筋に配布した。〈後記 此系譜作成ノ目的ハ、吾々子孫ガ唯単ニ西村家一族ノ幸ヲ考フルノミナラズ、社会、国家、人類ノ為メニ益センコトヲ祈ルカラデアリマス 皇紀二千六百年 七代目 西村貫一〉註1

戦争最中の44(昭和19)年6月、貫一は書物愛好家が集まる雑誌「陳書」第十五輯(神戸陳書会、非売品)に随筆「日本最古のゴルフ文献」を寄稿。古書入手の経緯と内容を述べる。『日本のゴルフ史』(交友社、1930年)を出版した当時、彼の蔵書中最古のゴルフ文献は1792年出版のオランダ本だった。その後、1793年スコットランド本、さらに1712年オランダ本を入手した。日本の雑誌では、1916(大正5)年横浜在住の外国人による「バンカー」。単行本は18(大正7)の頭本元貞『娯留夫圖説』。このたび1879(明治12)年の『體操及戶外遊戯』を知る。本稿にたびたび登場する住田正一(当時国際汽船重役)の随筆『考古漫筆』にその本のこと書かれていた。

〈……図の如きゴルフの絵があって、其英国に於ける沿革、由来から競技の方法に到る迄詳細に五十頁に亘って説明して居る。もちろん翻訳である。〉註1

貫一は全国の古本屋に注文書(200～300枚印刷)を出したが、何も手がかりなし。国際汽船の知人に住田を紹介してもらい、本を見せてほしい旨申し入れる。〈……数日経て「西村君の事は予てより知っている。君がそんなにほしい書物であれば寄贈仕様」と気前よく御寄贈に預った。〉註1

貫一は、読者・会員はゴルフに深い関心はない、と思い、まず日本での戶外遊戯の渡来・発祥年を記載する。野球＝明治6年、陸上競技＝明治8年、ラグビー＝明治32年、蹴球＝明治38年頃、拳闘＝大正10年頃、競漕＝大正6年、庭球＝大正11年……。〈……日本のゴルフは一九〇三年五月廿四日(明治卅六年)神戸在住の外人に依て始められたので、当日六甲山頂で正式の開場式を挙行。〉註1

外国人記者が報道したが、貫一から見ればゴルフの知識なく「幼稚なる記事」で、プレイヤーの「腕前も大したものでなかった」。

本はその時よりまだ24年前のもの。表紙「『體操及戶外遊戯』漢加斯底爾譯 明治十二年七月文部省印行 全」。内容は、重量物運搬、歩走術、歩行術、遊泳、氷上すべり、カーリング、ゴルフ、弓術、蹴鞠(サッカー?)など。訳者はオランダ人、ファン・カステール(貫一は「ハカステル」と読む)。

〈……当時文部省雇の人で、外国書に依って訳したのであらうと思われませう。〉註1

貫一は訳者の苦心と日本人助手の努力(ゴルフなど見たこともしたこともないだろう)に同情する。〈本文はゴルフの起源から書きおこして語原。遊

学者に対する要領。注意。最後に規則を詳細に説明しています。〉註1

読者のためゴルフそのものの説明より珍診・珍説を紹介が良いと考える。クラブは棒、キャディーは従者。勝負について、打球数が多い方が勝ちと思っている。パターは「プットル」。「パターの名手になるのは至難」と訳すべきところを、「善き「プットル」此器ヲ持テ戯ルル人トナラント欲スルハ皆人ノ目的トスル所ナレドモ成就セル人ハ甚ダ稀ナリ」。註1

雑誌「陳書」のこと。1931(昭和6)年3月、「珍に凝らず、奇に偏せず、例月図書印刷物を持ちよりにて相互研究の小会を催すべしとの議起りて」第1回会合。毎回15～20名出席。第2回は池長孟が長崎絵について講演。第3回は忍頂寺務が清元について。両者とも戦後のへちまクラブ・金曜の会員。貫一は第十五輯寄稿時に入会した。「西村氏は神戸随一の西村旅館主人、ゴルフ史の著で知られまた博学多識、蔵書も多い」。註4

それにしても戦争一色の非常時に書物愛好者たちはどのような気持ちで古書を繙いていたのだろう。米軍による空襲は本格化していないとはいえ、国民生活は逼迫していたはず。諦観か達観か。同号の目次。「古狂歌本に表はれた金魚」「竹婦人呉丈に就いて」「我國圖書の支那版」「幽霊堂年譜」……。岡部又蔵短歌三首「學徒出陣」が戦争を窺わせる。〈燃えほてる若人たちの凜々しさはげに神兵とおもほゆるかも〉〈わが子ぞ思ひなせしもけふよりはかへりみはせじすめらつはもの〉〈八十の老母と孫の學徒とはけさ寫眞とりわかれ征きけり〉註4

- 註1 『西村旅館年譜』自費出版 1980年

註2 「書物の趣味」第七冊 ぐろりあ そさえて1932年 国立国会図書館デジタル資料

註3 『伊藤長蔵』参考資料。●村田佐紀子「神戸図書館出版史ノート 昭和期(戦前)」(「歴史と神戸」93号 1979年) ●宮崎修二郎「神戸文学史夜話」(天祥発行所1964年) ●高橋輝次『関西古本探検』(右文書院2006年) ●Web青羽古書店「伊藤長蔵編／ダーウィン序文『ゴルフ愛好家の宝典』」http://www.aobane.com/books/561

註4 「陳書15」(昭和19.6.15) Web大阪大学附属図書館・小野文庫 https://kindai.nijl.ac.jp/kindais/OSONT-00115 写真 西村貫一「蔵書標に表れた言葉」(「アサヒグラフ」1929.10.23)

補註『年譜』には昭和14年10月にも同じ記述があり、昭和4年のページではなく、ここに雑誌原稿が再録されていて変。神戸市立中央図書館のデータベースで調べると、昭和14年発行「アサヒグラフ」に同記事はない。貫一には珍しいミス。



みなと元町タウンニュース	2024年(令和6年)2月1日	みなと元町タウンニュース	第378号(3)
<p>みなとMIO MACH ケンチクさんぽ vol.31</p>			

どちらかというともザイク画のような乙仲通り界限

2014年に栄町でコーヒーショップを開業してからもう少しで10年になりますが、学生時代(2000年前後)の印象、社会人～開業前の印象、開業後の10年間での印象、それぞれみなと元町への印象というのは、変化してきました。穴場エリアとして感じていた学生時代、商圏と居住区が混ざった趣の感じられる印象、モザイク画のような複雑さのある印象といった感じでしょうか。

初めに少し自己紹介をさせていただきます。大学卒業後、4年間金融機関に勤務した後、1年半ほど海外で時間を過ごし、帰国後にコーヒーショップを開業しました。当初より、事業を始めるのであれば地域に何らかの形で貢献したいという思いがありましたし、まちづくりには興味がありました。開業1年目(2014~2015年)にちょうど神戸松蔭女子学院大学の米原先生のゼミが卒業制作の発表会を乙仲通りの一店舗で開催していたのが始まりでした。そこから乙仲さんぽが始まり、多くの建築家の方々のご意見や街の見方、学生たちの新鮮な発想などに触れ、私自身も街への見方が整理されてきたように感じています。

遡ること20年ほど、私が学生の頃、お洒落なエリアはトアウエストでした。お洒落な古着屋、雑貨屋などが軒を連ね、小さなエリアではありますが、歩くのが楽しいエリアでした。時折、栄町エリアにも足を運んでいましたが、ほぼ決まったお店に行っていたように記憶しています。印象としては、個性的なカフェ



神戸市中央区の中での乙仲通り界限とは

神戸市として、乙仲通り界限にどのような役割、機能を期待しているのか。神戸市中央区には、北野、磯上、居留地、トアウエスト、花隈、栄町など、区切れる単位で特徴的なエリアがあります。それぞれをどのように位置づけているのか気になります。従前より、人口流出が神戸の課題として挙がっていますが、「魅力のある町」と魅力的

みなと元町タウンニュース	2024年(令和6年)2月1日	みなと元町タウンニュース	第378号(3)
<p>みなとMIO MACH ケンチクさんぽ vol.31</p>			

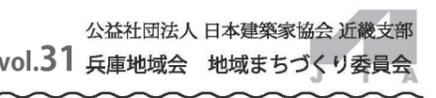


のある不思議なエリアという印象です。おそらく一般的な学生にとっては、居住エリアなのか、商業エリアなのか、何のためのエリアなのかピンと来ていなかったのでしょうか。友人からも『あの辺りは何があるの?』とよく聞かれたのは覚えています。

その後、海外へ行くようになり、徐々に建築物やまちの構造などにも興味がわきはじめてからは、乙仲通り界限への見方が少しずつ変わってきました。レトロで重要文化財に認定されている歴史的建造物が点在していたり、錆びついた鉄格子のある古いビルがあったり、一言では表せませんが、ある種の情緒あるエリアという印象に変わっていきました。ただ、今まで見てきた海外でこの乙仲通りと似た印象があるのは、(多くの方がいうように)パリのマレ地区、ミラノのナビリオグランデ運河界限など、どれも街が形作られた当初の用途から様変わりしながらも、従来の建築物を再活用しながら新たなエリアとしての地位を確立している個性的なエリアから感じました。その二つのエリアは欧州ならではのですが、建築物の雰囲気やエリアとしての統一感はもちろんあります。しかし、一歩建物内部に入った際のお店の個性や路地裏の散策に心躍らされるワクワク感がありました。ワクワク感を生み出すのは各ショップの魅力ですが、路地裏でも事業が継続できるエリアとしての魅力や集客力があるということの裏返しなのかも知れません。ショップが1階部分に集められ、住居、事務所は2階以上に集められ、コインパーキングのない視覚的な賑わいは街としても見えて気持ちがいいです。乙仲通りで実現するの



な仕事のある町”は異なりますし、移住者を増やす試みに即効性はありません。であれば、毎年まとまって神戸への流入と流出をもたらしている学生をいかに神戸にとどめらかなのかと。魅力的な仕事が神戸にあればとどまる学生は増えますし、魅力的な企業を誘致できるのは行政かと。そして、移住者へのサポートができるのもまた行政の機能。乙仲通り界限のコインパーキングや崩れ落ちそうなビル跡地に、街の景観を損なわずに地域を象徴するような興味深いオフィス



はなかなか難しそうですが。

事業を始めてもう少しで10年。2015年から始まったJIA兵庫地域会の建築家の方々を中心とした乙仲通界限プロジェクトでは、定例会を私の店舗で開催いただくことも多く、専門家の方々の意見を興味深く拝聴していました。また、学生を交えたワークショップや成果物のパネル展示などでも継続して関わらせていただき、この地域で事業を営むものとして、実現したいことや魅力的ではあるけれど、現実的には難しそうなもの、様々なアイデアを見るにつれて、まちづくりの難しさを改めて感じるとても貴重な体験でした。2016年度ワークショップの最終パネル展示には、神戸市の久元市長も見に来られるなど、うれしい一幕もありました。しかし、アイデアを実現するのはやはり難しく、みなと元町エリアは他の地域同様に店舗やビルの新陳代謝とも云うべく移り変わりを経ながら、今も個性的な店舗、ビル群によって成り立っています。

10年前に比べると人通りは増えてきているのは街としてうれしいことですが、近年ではメリケンパークがきれいになったことによって人々は海側へ足が向いているように感じています。神戸市の掲げるウォーターフロントの活用という意味では、成果が上がっている表れなのかと思います。

乙仲通り界限を総合的に考えると、居住エリア、商業エリアの垣根のないエリアとしての様相は見えますが、近づいてみると、やっぱり10年たった今でも街の雰囲気は未だ混沌としたもので、それが乙仲通り界限ということなのかも知れません。



ビルができれば、もう少し乙仲通り界限の立ち位置もしっかりしてくるのかと。まだまだ変化の余地のある地域ならではの面白みを期待しているここ数年です。



梅谷 周平（うめたに しゅうへい） 合同会社ROUND POINT 代表 / 趣味 コーヒー、旅行、写真